

社会における諸課題に向き合い、主体的に解決しようとする生徒の育成

～「主体的な学び」の実現を目指して～

梶原 隆一 奥田 陽介 塚越 武史 進藤 秀俊

1. 研究主題設定の理由

(1) 主題設定の背景

ア. 中学校学習指導要領（平成 29 年告示）

中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説では、改訂の経緯を、以下のように説明している。

今の子供たちやこれから誕生する子供たちが、成人して社会で活躍する頃には、我が国は厳しい挑戦の時代を迎えていると予想される。生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会構造や雇用環境は大きく、また急速に変化しており、予測が困難な時代となっている。

子供たちを取りまく「社会」は決して固定的に捉えられるものではなく、加速度的に、しかも複雑に変化し、予測困難になっている。また、大きく変化する社会が、必ずしも子供たちにとってプラスの影響だけを与えるわけではないことも銘記したい。

そのような社会にあって必要なことは、よりよい社会となるよう一人ひとりが現状に満足することなく、自ら課題を見出し、その解決を目指して考え、行動し続けることである。学校教育の使命の一つは、「よりよい社会の創り手」を育むことにあると考える。

イ. 本校社会科で育みたい資質・能力

中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説社会編では、社会科の目標を以下のように示している。

「社会的な見方・考え方」を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

さらに、育成を目指す資質・能力を三つの柱に沿った形で以下のように示している。

知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
我が国の国土と歴史, 現代の政治, 経済, 国際関係等に関して理解するとともに, 調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	社会的事象の意味や意義, 特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり, 社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力, 思考・判断したことを説明したり, それらを基に議論したりする力を養う。	社会的事象について, よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに, 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情, 国民権を担う公民として, 自国を愛し, その平和と繁栄を図ることや, 他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

そして、中学校学習指導要領（平成 29 年告示）で示している社会科の目標及び育成を目指す資質・能力に本校生徒の実態や課題点を踏まえて、本校社会科では育成したい資質・能力を以下のように考えてきた。

- ・ 社会で見られる（た）様々な事象や課題等に関することを理解するとともに、課題解決に向けて諸資料から様々な情報を調べ、既知の事象と関連付けたり、まとめたりすることができる。
- ・ 社会における諸課題について、他者の考えに触れながら多面的・多角的に考察し、その解決に向けて考え、新たな価値を創造し、周囲と議論すること。また、様々な方法で表現することができる。
- ・ よりよい社会の実現のために、新たな課題を見出したり、他者の考えも参考にしながら、自分に何ができるのかを判断していこうとしたりすることができる。

ウ. 全体研究

本校全体研究では、「創造性に富んだ、未来を切り拓く生徒の育成」を主題に掲げ、研究を進めている。「創造性」とは、「自ら課題を見出し、その解決に向かって、これまでに学んだことや新たな知、技術革新を結び付けて、新たな価値を創造するための資質・能力」である。社会科の学びを通して育みたい「創造性」とは、大きな時代の変化の中で、「よりよい社会」という新たな価値を創るという視点で、社会課題を見出し、その解決に向かって、学んだことや新たな知、技術革新を結び付けて解決を目指すことであると考えます。

そして、昨年度までの研究の成果と課題を生かして、『主体的な学び』の具体像の深化、『主体的な学び』の評価、「評価規準の設定と生徒への支援」について重点的に取り組む。特に、評価については1年次の成果と課題や昨年度の校内研究会に招聘した山梨大学田中准教授の助言などをもとに、『主体的に学習に取り組む態度』の評価の枠組みを設定し、各教科で次の通り実践を重ね、「主体的な学び」に向けた指導と評価のあり方について研究を深めたい。また、「主体的な学び」を表出させる方法として「振り返りのワークシート」が活用されているが何を記述させれば生徒の学びの姿を捉えることができるのか、具体的にどのような支援が考えられるのか深めたい。そして、一人一台パソコンが実現している学年については、ICTを活用した振り返りを実践したい。

(2) これまでの研究の歩みから

平成 29 年度から昨年度までの3年間は、テーマを「社会の形成者としての資質・能力を育む授業の創造 ～社会科における『見方・考え方』を働かせた学びを通して～」と掲げ、「社会的な見方・考え方」を働かせた学びのあり方や、その学びを通して育まれた資質・能力を見取るための評価の工夫について研究を行った。

① 「見方・考え方」を働かせた学び

本校社会科では、学習指導要領（平成 29 年告示）で示された「現代社会の見方・考え方」、「地理的な見方・考え方」、「歴史的な見方・考え方」の3つの「見方・考え方」を、それぞれの分野の学習でのみ働かせるものではなく、必要に応じて3分野のどの学習においても働かせるべきものであると捉えた。3つの「見方・考え方」をすべて、もしくは一部を働かせることによって、社会的事象を多面的・多角的に捉え、より深い学習が可能となると考えた。図1は、この捉え方を図式化したものである。

また、生徒が自ら「見方・考え方」を働かせられるようにするには、「教材研究の段階で、教師自身が『見方・考え方』を働かせること」、「視点や考察の方法に着目して、毎時間の学習課題の質を高めること」が有効であることが見えてきた。

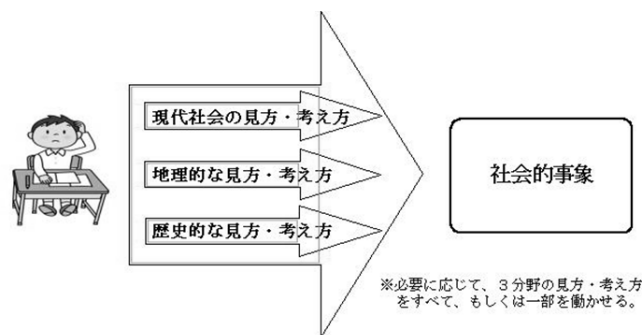


図1 本校社会科の考える「見方・考え方」

② 資質・能力を見取るための評価の工夫

ア. 「学習の記録」

「学習の記録」とは、毎時間の授業の「まとめと振り返り」、単元全体の「まとめと振り返り」を記述させるためのワークシートである。

「学習の記録」のまとめから、生徒に「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」が身についたかを見取ることができた。

また、毎時間の授業後や単元の学習後に、社会科で育みたい資質・能力を育むことをねらって設定された「単元の学習課題」に対して、「その解決にどこまで近づけたか」、「次回からの学習で何を学ぶことが必要か」などを問うことで、学んだことを羅列させるのではなく、資質・能力ベースで自分自身の学びを振り返らせることができた。単元を重ねるごとに、生徒の記述にも深まりが見られ、前の授業や前の単元での学びを活かして、学習課題の解決に取り組もうとする場面が増えた。授業や単元の学習のはじめに、何人かの生徒の記述を共有したり、「学習の記録」に教師がフィードバックを行ったりすることを通して、生徒の学びを軌道修正したり、深めさせたりすることができた。

イ. パフォーマンス課題とルーブリック

すべての単元において、社会科で育みたい資質・能力を育むことができたのかを評価するためのパフォーマンス課題を設定した。パフォーマンス課題に対する生徒の取り組みは、教師が評価し、単元の学習の総括的評価として扱い、評定に用いる評価として活用し、次の単元の学習に生かせるよう生徒へのフィードバックを行った。

また、生徒自身にもルーブリックを用いての自己評価、または生徒同士の相互評価を行わせることを通して、生徒に自らの学びを振り返らせることができた。毎回のパフォーマンス課題の自己評価を終えたところで、ルーブリックそのものの評価や修正も行わせた。ルーブリックを評価したり、修正したりするには、単元の学習においてどのような資質・能力を高めればよいのかを認識する必要がある。そのため、この学習活動を通して、生徒自身に自らの目指すべき目標を自覚させ、自らの学びの振り返りを深めさせることができた。

③残された課題

明確な規準をもって、自らの学びを振り返らせ、次の学びにつなげさせられたという点においては、「学びに向かう力、人間性等」を育むことができたといえるが、「主体的」と問われれば疑問が残る。教師のフィードバックなどの支援を受けながら、生徒自身が学び方や振り返り方、振り返りの活かし方を考え、工夫して学びを進めていくという意味における「主体的な学び」を実現するための取り組みが必要であると考えられる。

2. 主題について

社会における諸課題に向き合い、主体的に解決しようとする生徒の育成 ～「主体的な学び」の実現を目指して～

本校社会科では、「昨年度までの研究の成果と課題」、「生徒の実態」及び「研究の背景」を踏まえて、主題を上記のように設定した。

グローバル化、外国人労働者の受け入れ拡大、第4次産業革命の急速な進展、少子高齢化などを背景に、日本の社会構造や産業構造、雇用環境は大きく、急速に変化している。また、多様なルーツや価値観をもつ人々が混在する社会となっている。その中で、身近な地域や国内、世界全体など様々なレベルで問題が発生している。そうした問題を、自分自身や社会全体との関わりの中で捉えたものが「社会における諸課題」である。

「社会における諸課題」を「自分事」として捉え、その解決に向かって、自らの考えや学びを振り返り、視点や方法を工夫しながら考察したり、構想したりすることができる生徒を育てたい。

そして、本主題は主体的に学ぼうとする態度の育成に重点を置きながらも、3つの資質・能力を一体として育んでいく。そのために、一昨年度までの研究主題であり、本校社会科で培ってきた「見方・考え方」を働かせた学びやパフォーマンス課題等も意識した「主体的な学び」を目指していきたい。また、研究主題実現のために昨年度の研究を生かしたプロセスモデルの活用、特に方略調整の場面での取捨選択や課題に対して根拠の検討など生徒自身が学習調整をおこない、学習課題の解決に取り組む「主体的な学び」を実現するために本年度の研究主題とした。

3. 研究内容

(1) 1年次の研究

1年次は、「主体的な学び」の実現を目指して、研究を行う。具体的には、全体研究で示された「主体的な学び」のプロセスモデルを活用して、「主体的な学び」の有り様を明確にし、その実現のためにどのような手立てが必要か研究を行う。また、「主体的な学び」が実現されたかを見取る「主体的に学習に取り組む態度」の評価について、その評価方法や評価場面、評価規準、フィードバックの方法などについて研究を進めた。

ア. 「主体的な学び」のプロセスモデルを踏まえた単元構想

単元を構想する際に、「主体的な学び」のプロセスモデルをもとに、課題解決型の学習になるようにする。また、毎時間の授業を「主体的な学び」のプロセスモデルの各過程に位置づける。単元の学習内容によっては、すべての過程に位置づけることは難しい場合もあるが、「学びをつなぐ」という意味で重要な「振り返り」、「方略調整」、「全体の振り返り」については、必ず設定したい。以下に、公民的分野の「民主政治と私たち」という単元を例として示した。

《例》公民的分野「民主政治と私たち」

○単元を貫く問い（単元全体の学習課題）

「民主的な政治とはどのような政治か？そしてどのようなしくみが必要か考えよう。」

○単元の目標

- ・政党の役割，議会制民主主義の意義，多数決の原理とその運用の在り方について理解することができる。

【知識及び技能】

- ・民主政治の推進と，公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察し，表現することができる。

【思考力，判断力，表現力等】

- ・民主政治と政治参加について，現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする。

【学びに向かう力，人間性等】

○単元の指導計画（全8時間）

時	題材名	学習課題	「主体的な学び」のプロセスモデルの過程
1	民主的な政治のあり方①	単元を貫く問いを考えよう。	目標設定 方略計画
2	民主的な政治のあり方②	「民主的な政治」の種類と議決方法の特徴は何か？	遂行 振り返り
3	民主的な選挙のしくみ	「民主的な選挙」の原則と日本の選挙制度は何か？	遂行
4	実際の選挙から見る日本の選挙制度の特徴と課題①	実際の選挙から考えられる日本の選挙制度の特徴は何か？	遂行
5	実際の選挙から見る日本の選挙制度の特徴と課題②	実際の選挙から考えられる日本の選挙制度の課題は何か？	振り返り
6	投票率の推移から考える選挙のあり方①	投票率の推移の特徴と原因は何か？	遂行
7	投票率の推移から考える選挙のあり方②	投票率を上昇させるために必要なことは何か？	振り返り 方略調整
8	民主的な政治を目指すための政治参加	政治参加をするために必要なことは何か？	遂行 全体の振り返り

イ. 「主体的に学習に取り組む態度」の評価の工夫

本校社会科でこれまで取り組んできた「学習の記録」を活用して、「主体的に学習に取り組む態度」の評価を行おうと考えている。「学習の記録」に、「主体的な学び」のプロセスモデルにおける「振り返り」，「方略調整」，「全体の振り返り」について記述する枠を設定する。「振り返り」や「方略調整」については，教師がコメントを行ったり，生徒同士で記述内容を交流させたりして，生徒自身が「自らの学びを調整する」ことにつなげていきたい。また，「全体の振り返り」については，「単元での学びの質や成果を振り返っているか」，「次の単元での学びにつながるような振り返りをしているか」，「単元の学習に粘り強く取り組もうとしていたか」という点に着目して評価したい。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価は，生徒の学びそのものを評価するものなので，単元の最後には「知識・技能」や「思考・判断・表現」の観点から資質・能力が育まれたかを見取るための小テストを行い，その小テストの到達度を踏まえて，「主体的に学習に取り組む態度」の評価を行う必要がある。

ウ. 残された課題

令和2年度の実践では地理や公民において「主体的な学び」のプロセスモデルを踏まえた単元構想の作成や評価の工夫を行ってきたが、次の点で課題が出てきた。まず、プロセスモデルを踏まえた実践では単元全体の見通しと振り返りの場面設定を位置づけ、形成的評価と総括的評価を行う単元を見据えた広い単元構想の計画が必要であることが分かった。また、実際に実践を試みると方略調整やまとめの時間に時間がかかるので、従来の単元計画時数では困難な場面も出てきた。そのため、必要に応じて単元計画の見直しや授業で行う場面と次時までの課題として取り組ませる場面も必要であるという意見も出た。そして、令和2年度の実践では地理や公民のように単元全体で一つの主題に取り組む実践を行ったが、歴史の単元についてはまだ実践が進んでいなかった。歴史のように1時間ごとに取り扱う事象が異なる学習では方略調整はどのように取り組んでいくのか、また主題設定も時代を貫くような抽象的な主題になりかねないのではという反省もあった。

(2) 2年次の研究

2年次は、1年次の研究の成果と課題を踏まえ、「主体的な学び」の実現を目指して、研究を行う。具体的には、全体研究で示された『『主体的な学び』の具体像の深化』、『『主体的な学び』の評価』、『評価規準の設定と生徒への支援』について重点的に取り組む。また、社会科としての課題であった形成的評価と総括的評価を行う場面の共有および単元構成の見直しについても研究を深めた。

ア. 「主体的な学び」のプロセスモデルを踏まえた単元構想

単元を構想する際に、「主体的な学び」のプロセスモデルをもとに、課題解決型の学習になるようにする。また、毎時間の授業を「主体的な学び」のプロセスモデルの各過程に位置づける。単元の学習内容によっては、すべての過程に位置づけることは難しい場合もあるが、「学びをつなぐ」という意味で重要な「振り返り」、「方略調整」、「全体の振り返り」については、必ず設定したい。特に、単元を貫く問いを授業者が設定し、生徒は毎時間単元全体の問いについて振り返り、形成的評価や方略調整が意識できる単元、授業づくりを目指す。

イ. 「主体的に学習に取り組む態度」の評価の工夫

本校社会科でこれまで取り組んできた「学習の記録」を活用して、「主体的に学習に取り組む態度」の評価を行おうと考えている。昨年度は、「学習の記録」に、「主体的な学び」のプロセスモデルにおける「振り返り」、「方略調整」、「全体の振り返り」について記述する枠を設定し、「振り返り」や「方略調整」については、教師がコメントを行ったり、生徒同士で記述内容を交流させたりして、生徒自身が「自らの学びを調整する」ことにつなげた。一方で、生徒同士の交流では評価の観点を示すことや生徒同士でどの部分まで評価するのかなど課題も残った。また、「全体の振り返り」については、昨年度は「単元での学びの質や成果を振り返っているか」、「次の単元での学びにつながるような振り返りをしているか」、「単元の学習に粘り強く取り組もうとしていたか」という点に着目して評価を試みた。今年度も振り返りのワークシートを工夫し、相互に自己調整や評価ができるように目指していきたい。

また、GIGAスクール構想の実現として振り返りのワークシートを電子化し、より活用の幅を広げ、生徒の評価や学習の深まりに生かしていきたい。

そして、「主体的に学習に取り組む態度」の評価は、生徒の学びそのものを評価するものなので、単元の最後には「知識・技能」や「思考・判断・表現」の観点から資質・能力が育まれたかを見取るために学習前・学習中の自分との比較をさせる記述から評価を行う必要がある。

5 これまでの実践事例

【実践1】令和3年7月2日（月）第1回事前研究会 〈3学年歴史的分野：進藤 秀俊〉

(1) 単元名「日本の近代」

(2) 指導観

本単元は、大単元「日本の近現代」の一部としての設定されている。日本の近代と現代の歴史はつながりが強く、1つの大単元としてくり、相互に関連させて学習させることで、原因や結果、影響などをより深く理解させることができると考えた。また、大単元を貫く問いとして、「日本の近代とはどのような時代であったか、またそれは現代にどのような影響を与えたのか」を立て、単元の学習を終えるごとに、問いに答えさせることとした。それによって、各単元の位置づけが明確になり、大単元全体で「主体的な学び」のプロセスモデルを実現できると考えた。さらに、近代の歴史を踏まえて、現代の歴史を捉えるだけでなく、現代の歴史を学んだ後で近代の歴史を振り返り、再評価する学習活動を仕組むことができ、生徒のより深い理解につながれると考えた。ちなみに、『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料では、学習指導要領の中項目をいくつかつなげた形で単元を設定し（本実践においては大単元）、「技能」や「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の評価場面を精選することが想定されている。

本単元の指導においては、自分なりの視点をもって日本の近代を捉えられるよう、学級全体として「歴史を学び、自分なりの時代像を考える際の視点」を考案し、「歴史の目」と名付けて共有することとした。これについては、前単元までの学習において、単元終末の授業に生徒たちに学習した歴史を振り返らせ、その時代像を述べさせる活動を仕組んだ。その時代像を捉える際の「考え方」を出し合い、共通する点を整理する中で少しずつ練り上げていった。共有した「歴史の目」を選択して、日本の近代を説明させる形にすることで、生徒観で述べたような課題の改善に近づけたり、生徒同士が互いの意見を理解しやすくしたりすることができると考えた。これは、一昨年度まで本校社会科で取り組んでいた「教科ならではの見方・考え方」についての研究の成果を活かしたものである。本単元までの学習において生徒ともに考案した「歴史の目」は、次の表の通りである。

表「歴史の目＝歴史的分野の学習における『考え方』」

考え方	内容
時系列	「時系列」に並べ、そのつながりを見て考える。
変化と継続	「変化」や「継続」に着目して考える。
比較	2つ以上のものを「比較」して考える。
関連、原因・結果や影響	2つ以上のものを関連づけて考える。
大きな流れを見る	時代の大きな流れに着目して考える。
転換点	各時代の「転換点」となる事象に着目して考える。
複数の立場	複数の立場に着目して考える。
多面的	事象をいくつかの側面に着目して考える。
現代と結びつける	現代の世界や日本と結びつけて考える。

(3) 本単元における「主体的な学び」の姿 ※（ ）内は「主体的な学び」のプロセスモデルの学習過程

本単元では、「主体的な学び」のプロセスモデルをもとに、「日本の近代」像を自分で選択した「歴史の目」に基づいて考えさせる学習を行う。前単元までの学習内容を踏まえて、自分なりに「日本の近代」像を考えさせた上で、その時代像をより高いレベルのものにするという目標を設定させるところから単元の学習を始める。

(目標設定)「日本の近代」像を考える手立てとして、学級で共有したものの中から1つ「歴史の目」を選択させる。(方略計画) 続けて、さまざまな「歴史の目」を活用して、実際に「日本の近代」像を考え、より適切な

「歴史の目」を探る学習を繰り返し行う。(遂行・振り返り) 単元末には、各自で「歴史の目」を選択させ、「日本の近代」像を自分なりに考えさせるとともに、他者との交流などを通して自らの考えを深めさせ、「日本の近代」をより効果的に説明することができる「歴史の目」を改めて選択させる。(振り返り・方略調整) 単元末には、自らの「学び方」を振り返らせ、その成果と課題を次の単元の学習に活かさせる指導を行う。(全体の振り返り)

本校社会科では、「社会における諸課題に向き合い、主体的に解決しようとする生徒の育成」を目指している。「主体的に解決しようとする」とは、「課題」に対して「自分事」として捉え、解決に向かって、自らの考えや学びを振り返り、視点や方法を工夫しながら考察したり、構想したりすることである。これは、「主体的な学び」のプロセスモデルの「振り返り・方略調整」の学習過程に当てはまるものである。また、昨年度までの実践において、教科研究会などで多くいただいたご意見が、「主体的な学び」のプロセスモデルの「方略調整」を生徒自身が行えるようにする工夫がもっと必要なのではないかという点であった。以上のことから、本単元ではとくに「方略調整」に重点を置いて授業を仕組みたい。

(4) 本単元における「主体的に学習に取り組む態度」の評価

全体総論で示された『「主体的に学習に取り組む態度」の評価の枠組み』に基づき、評価規準を定めた。具体的には、単元の「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準を「よりよい社会の実現を視野に「歴史の目」を取捨選択しながら「日本の近代」像を追究しようとしている。」を「おおむね満足している」状況(B)とした。また、「十分満足できる」状況(A)については、生徒が実現している学習の状況が質的な高まりや深まりをもっていると判断される時であり、多様な状況が考えられる。また、「努力を要する」状況(C)の生徒に対しては、「考え方」の選択方法などについてフィードバックしたり、学級内の他の生徒の意見を紹介したりしたい。

本単元では、上述の通り「方略調整」に重点を置いているため、「歴史の目」を選択し、「日本の近代」像を自分なりに考える場面における「主体的な学習に取り組む態度」の評価(第7時)を「評定に用いる評価」として扱う。また、『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校社会』において、「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、「自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価することが重要である。」と示されていることから、「全体の振り返り」にあたる単元終末の授業における生徒の振り返り場面の評価(第8時)も「評定に用いる評価」として扱う。

「主体的な学び」を表出させる手段としては、ワークシートを活用する。具体的には、生徒が「日本の近代」像を考える過程において、どのように「歴史の目」を取捨選択したのか、またなぜその「歴史の目」を選択したのか記述させる。また、毎時間の振り返りと単元全体の振り返りを記述できるワークシートを用意し、単元終末の授業後に、「粘り強く学習に取り組む」側面と「自己調整しながら学ぶ」側面に関わる学習状況について記述させる。

(5) 本単元における「社会における諸課題」に向き合うこと

本校社会科では、歴史的分野において「社会における諸課題に向き合う」とは、(i)現代の世界や日本、地域に見られる諸課題との関わりの中で歴史的事象を捉えること、(ii)歴史の授業で学ぶ各時代において課題となっていたことを捉え、学びに向かうことであると考えている。

本単元が含まれる大単元を貫く問いでは、「近代と現代との関わり」について考えることになる。そのため、本単元においては、(i)であると考えている。現代の歴史には、中学校ではまだ学習していない段階であるが、小学校での既習事項や地理的分野の学習を通して、現代の日本についての知識は一定程度もっているはずなので、それらを活かしながら「日本の近代」の歴史を捉えさせたい。

(6) 単元の指導目標

- (i) 欧米における近代社会の成立とアジアの諸国の動き，明治維新と近代国家の形成，議会政治の始まりと国際社会との関わり，近代産業の発展と近代文学の形成，第一次世界大戦前後の国際情勢と大衆の出現などを基に近代の特色を理解することができる。 【知識及び技能】
- (ii) 近代の日本と世界を大観して，「歴史の目」を選択し，時代の特色を多面的・多角的に考察し，表現することができる。 【思考力，判断力，表現力等】
- (iii) よりよい社会の実現を視野に，「歴史の目」を取捨選択しながら，「日本の近代」像を追究することができる。 【学びに向かう力，人間性等】

(7) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
欧米における近代社会の成立とアジアの諸国の動き，明治維新と近代国家の形成，議会政治の始まりと国際社会との関わり，近代産業の発展と近代文学の形成，第一次世界大戦前後の国際情勢と大衆の出現などを基に近代の特色を理解している。	近代の日本と世界を大観して，工業化の進展と政治や社会の変化，明治政府の諸改革の目的，議会政治や外交の展開，近代化がもたらした文化への影響，経済の変化の政治への影響，戦争に向かう時期の社会や生活の変化，世界の動きと我が国との関連などに着目して，事象を相互に関連づけるなどして，近代の特色を多面的・多角的に考察し，表現している。	近代の日本像について，よりよい社会の実現を視野に，仲間と交流したり，自己と対話したりしながら，学習課題を解決しようとしている。

(8) 単元の「指導と評価」計画 (全9時間) ●…学習改善につなげる評価 ○…評定に用いる評価

回数	主な学習内容	知	思	態	主体的な学びのプロセスモデル
1	これまで学習した「日本の近代の歴史」をまとめる。	●		●	【目標設定・方略計画】 ・単元の目標に沿った自分なりの目標を立てる。 ・これまでの学習の成果を活かし，「日本の近代の歴史」を説明するのに効果的な「考え方」を選択する。
2	「複数の立場」「多面的」の「歴史の目」を活かして日本の近代を説明する。		●	●	【遂行】【振り返り】 ・様々な「歴史の目」を活用して，日本の近代を説明する。 ・それぞれの「歴史の目」の良さや課題について振り返る。
3	「変化と継続」「比較」「関連，原因・結果や影響」の「歴史の目」を活かして日本の近代を説明する。		●	●	
4	「大きな流れ」「転換点」「現代と結びつける」の「歴史の目」を活かして日本の近代を説明する。		●	●	
5	「考え方」を選択し，「日本の近代の歴史」を説明する。	○	●		【遂行】 ・これまでの学習の成果を活かし，自分が


					効果的だと考える「歴史の目」を選択し、日本の近代を説明する。
6	自分が選択した「歴史の目」を振り返り、改めて選択する。			○	【振り返り】【方略調整】 <ul style="list-style-type: none"> ・仲間との交流を通して、自分が選択した「歴史の目」の効果について振り返る。 ・振り返りを活かし、単元を貫く問いの解決により効果的な「歴史の目」を改めて選択する。
7	自分が選択した「歴史の目」を活用して、「日本の近代の歴史」について説明する。			○ ○	【遂行】【全体の振り返り】 <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習の成果を活かし、自分が効果的だと考える「歴史の目」を選択し、日本の近代を説明する。 ・単元の学習を通して、自らの目標達成のために努力し続けたことや工夫したことを振り返る。 ・単元の学習の成果と課題を次の学習にどのように活かすか考える。

(9) 成果と課題

「方略調整」に焦点を当て、「歴史の目」についてその良さと課題を検討したり、日本の近代について説明する上で効果的だと考える「歴史の目」を選択したりする学習活動に取り組みさせた。その中で、日本の近代について多面的・多角的に考えさせたり（資料Ⅰ）、「歴史の目」の特徴を理解させたり（資料Ⅱ）することができ、単元の目標のうち、とくに「思考・判断・表現」の達成に近づけさせることができた。

複数の立場	政治家と大衆(雑俎)	労働運動やデモなど強まり力を持った時代。 →大衆文化なども 政党政治が本格的に始まった時代。
変化と継続	外国との関係(外交)	外国と手を組むようになり、帝国主義の動きも拡大していきようになった(特異) 朝鮮半島を日本の支配化に入れようとした時代。
比較	文化(元禄や化政文化と)	欧米の文化がとり入れられた。また、一部の身分の人だけでなく大衆力をもつようになり、大衆文化が広がった時代。
関連原因・結果や影響	戦争	領土を拡大(特に朝鮮半島)しようとして、日清、日露戦争を行い、第一次世界大戦にも参戦した。しかし、支配できた領土は少なく、国民は多額の税金の負担を負った時代。

資料Ⅰ：表の真ん中の列には「着目点」について記述している。多様な立場・側面に着目している。

歴史の目: 転換点
<p><u>最終的に選んだ理由</u> 近代は全体的に見て変化し、時代ごとの目でもわかると思うけど、「○○が起 こって〜から変わった」という根拠を見い出せないので、転換点が一番 わかりやすいと知りから。</p> <p>例えるとして... 何も変わらない、直線道があったとして、急にまがり角があったら道は曲がって 別の方向に向かってくる。その曲がり角が「転換点」  </p>

資料II: 生徒が選択した「歴史の目」について説明している。

また、「歴史の目」と関連性が高い「歴史的な見方・考え方」を鍛えることにもつながり、この後の学習において、生徒が自ら学習方略を取捨選択し、調整しながら学ぶ「主体的な学び」の実現に近づくことができたと思う。(資料III) 生徒とともに、自分たちなりの「目」を練り上げ、それらを活用して学びを進めることは、社会科の学習を通して育みたい資質・能力の育成に効果的であるといえる。

6 それぞれの歴史の目には必ず似ているものがある。その違い、良さを明らかにすることで、よりよい歴史の目が見つけられると思った。

それぞれの歴史の目の良さをみただけでなく、課題点を明らかにして、毎時間 どの歴史の目
が適しているのか考えた。

資料III: 授業の振り返り(上)と単元の振り返り(下)
 学習方略について考えを深め、自らの学びにつなげようとしている。

一方で、生徒の記述や活動の様子から、単元を貫く問いの解決への意識が薄れてしまうこと、歴史的な事象そのものへの思考が欠如してしまい、思考力が高まらないことが課題として挙げられる。単元を貫く問いの解決への意識が薄れてしまうと、学んだ知識・技能を結び付けて、思考・判断し、表現するという深い学びが実現できない可能性がある。(資料IV) 「歴史の目」はあくまで手段であり、歴史的な事実をもとにして、「何が分かったか」「何を考えたか」を常に生徒に問い、表出させることが重要であるといえる。

転換点	不平等条約改正	欧米諸国に追いつくことと目標だったのが、不平等条約改正を期に領土を広げることが目標になった。
-----	---------	--

資料IV: 表の右側の列には「時代像」について記述している。
 根拠が明示されておらず、歴史的な事象について深く考えられていない。

また、歴史を大観する学習において、「歴史の目」を選択させることが有効かどうか疑問も残った。「歴史の目」で捉えさせる時間軸が長すぎたため、生徒の記述した日本の近代像が、全体を網羅したものになっておらず、生徒たちなりの時代観をもたせることにはつながったが、日本の近代を「大観」させることはできなかったのではないかと考える。(資料V)「歴史的な見方・考え方」とそれを使って捉えさせる時代のスケールとの関係性については、今後も授業実践を重ね、研究を深めていきたい。

変化と継続	日本の地位と戦争	3回の戦争を経て、不平等条約改正から、日本の国際地位を上げるこれが目的になった時代
比較	男と女	性別によって、選挙権や自由に制限がされた時代
関連 原因・結果や影響	政治と運動	自由民権運動によって、政府が国民政治を行い、憲法をつくった。

資料V：表の真ん中の列には「着目点」、右側の列には「時代像」について記述している。一部にフォーカスした内容で、日本の近代全体は大観できていない。

【実践2】令和3年11月27日(土)中等教育研究会 〈1学年地理的分野：塚越 武史〉

(1) 単元名 「世界の諸地域 北アメリカ州」

(2) 指導観

学習指導要領 地理的分野 B(2)「世界の諸地域」においては、「次の①から⑥までの各州を取り上げ、空間的相互依存作用や地域などに着目して、主題を設けて課題を追究したり解決したりする活動を通して、以下のア及びイの事項を身に付けることができるよう指導する。ア 次のような知識を身に付けること。(ア)世界各地で顕在化している地球的課題は、それが見られる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解すること。(イ) ①から⑥までの世界の各州に暮らす人々の生活を基に、各州の地域的特色を大観し理解すること。イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。(ア) ①から⑥までの世界の各州において、地域で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現すること。」ことが挙げられている。

本単元では、北アメリカ州を大観する学習を踏まえ、地理的な特徴やそれらを活用した人間の営みを概観させ、地域内の結び付きなどに着目して、地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する学習活動を行う。また、本単元では、主にアメリカ合衆国を扱い、様々な統計資料を複合的に考察させ、導かれた振り返りが、単元を貫く問いである「アメリカ合衆国はこれからも同様に世界に影響を与え続けるのか」につながるよう構成し、毎時間の学習を通して問いの解決に結びつけていきたい。そのようにすることで、各自の「北アメリカ州」観があきらかになったり、互いの地域観の違いが明確になったりして、生徒が「地域の大観」を行うことができると考える。その際、地域を構成する特色に着目させ、地形や気候、産業、人々の生活との因果関係があり、社会の形成に大きく関わったり、その地域的特色を象徴したりする事象が重視されていることに気づかせたい。そして、地域の特色をふまえた上で、地域の持つ地球的課題に触れ、課題解決の取り組みに結びつけたい。また、「多面的・多角的」に「北アメリカ州」を捉えさせるために、根拠を説明させる際には、どの側面に着目したのか(多面的)、どの立場から考えたのか(多角的)を明確にさせたい。そして、身に付けた知識を活用することや資料やグラフから読み取ったことをつなげることが苦手であるという生徒実態を踏まえて、複数の資料を提示し、それらをつなげて考察する活動を設定する。その中で出てきた仲間 の意見を自分の考えと関連付けて、思考を整理・統合し、グループの意見として発表させることで、意見を表出すること

への苦手意識の克服につなげる。そして、授業では興味・関心をもたせるために、身近なものの写真などを導入で提示し、主体的な学びを促す。また、授業の目標を明確に示し、終末に目標に対するまとめを行う。また、学習の記録を工夫することにより、単元を貫く問いとの関連性を意識するとともに、毎時間個々が思考したことや気付いたことをキーワード等で書き込んでいくことを継続的に指導する。そうすることで、常に主体的な学びの形が作れ、受け身の授業になるが故の集中力の欠如を防ぎ、絶え間ない自己決定の場面を与えることに繋がると考える。さらに本時では、学習テーマに対して答える材料となる資料を、自ら選ばせることによって、テーマを自分のものとして捉え、自発的に考えようとする姿勢になるようにしたい。また、グループ協議では、ファシリテーターを中心に話し合いを進め、協議が滞っている場合は、より具体的な視点を与えたり、新たな問いを投げかけたりすることで、協議を活性化するように支援する。社会科の授業では4人での小グループ学習を基本とする。これは、生徒の自信の無さによる不安を軽減したり、自分の持っていない視点を補ったりする効果を狙ったものである。授業規律の徹底や、個人でじっくりと考える時間の確保が難しくなることとの兼ね合いがあるが、主体的な学びを維持するために、効果的にこの機能を利用していきたいと考える。本時では通常の小グループ学習に加えて、グループから出てきた意見を参考により良いまとめに辿り着くよう指示を出し、視点を与える。こうすることで、互いの考えを肯定的に聞き、積極的に取り込みながら建設的な話し合いが必然的に行われるものと思われる。さらに、教師と生徒の間で行われる会話においても、生徒の発言やつぶやきが、教師を介して全体に共有されたり、肯定的に取り上げられたりすることで、有用なものとして扱われるように心掛けたい。

(3) 本単元における「主体的な学び」の姿

中学校学習指導要領（平成 29 年告示）で示している社会科の目標及び育成を目指す資質・能力に本校生徒の実態や課題点を踏まえて、本校社会科では育成したい資質・能力を以下のように考えてきた。「よりよい社会の実現のために、新たな課題を見出したり、他者の考えも参考にしながら、自分に何ができるのかを判断していこうとしたりすることができる。」本単元においては「世界の諸地域」の学習を通して、その地域の特徴をとらえるとともに、その地域の抱える地球的課題について考えていく。その中で、他の生徒との意見交換や課題を深めることにより、自身の考えを深め、課題解決に向けて自分なりの意見を持つことを目指していく。

(4) 本単元における「主体的に学習に取り組む態度」の評価

教科研究ではこれまで取り組んできた「学習の記録」を活用して、「主体的に学習に取り組む態度」の評価を行っている。昨年度は、「学習の記録」に、「主体的な学び」のプロセスモデルにおける「振り返り」、「方略調整」、「全体の振り返り」について記述する枠を設定し、「振り返り」や「方略調整」については、教師がコメントを行ったり、生徒同士で記述内容を交流させたりして、生徒自身が「自らの学びを調整する」ことにつながった。また、「全体の振り返り」については、昨年度は「単元での学びの質や成果を振り返っているか」、「次の単元での学びにつながるような振り返りをしているか」、「単元の学習に粘り強く取り組もうとしていたか」という点に着目して評価を試みた。本単元においても振り返りのワークシートを工夫し、相互に自己調整や評価ができるように目指していきたい。

(5) 単元の指導目標

- (i) 世界各地で顕在化している地球的課題は、それが見られる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解し、北アメリカ州に暮らす人々の生活を基に、北アメリカ州の地域的特色を大観し理解することができる。 【知識及び技能】

(ii)北アメリカ州において、地域で見られる持続可能な開発目標などの地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結びつきなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現することができる。【思考力、判断力、表現力等】

(iii)北アメリカ州について、よりよい社会の実現を視野に地域で見られる持続可能な開発目標などの地球的課題の要因や影響を主体的に追究しようとする態度を養うことができる。【学びに向かう力、人間性等】

(6) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 世界各地で顕在化している地球的課題は、それが見られる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解している。 北アメリカ州に暮らす人々の生活を基に、北アメリカ州の地域的特色を大観し理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 北アメリカ州において、地域で見られる持続可能な開発目標などの地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結びつきなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 北アメリカ州について、よりよい社会の実現を視野に地域で見られる持続可能な開発目標などの地球的課題の要因や影響を主体的に追究しようとしている。

(7) 単元の「指導と評価」計画 (全8時間) ●…学習改善につなげる評価 ○…評定に用いる評価

時数	主な学習内容	知	思	態	評価規準 (評価方法)	主体的な学びのプロセスモデル
1	○北アメリカ州とアメリカ合衆国の課題設定			●	<ul style="list-style-type: none"> 生徒によるワークシートへの記述 話し合いの様子 	【目標設定・遂行】 <ul style="list-style-type: none"> 単元の目標に沿った自分なりの課題を立てる。 アメリカに対して知っていることを共有し、既習事項の確認をする。
2	○学習項目①「北アメリカ州の自然環境」	●			<ul style="list-style-type: none"> 生徒によるワークシートへの記述 発言の様子 	【遂行】 <ul style="list-style-type: none"> 地図を見ながら自然環境の特徴と災害について知る。
3	○学習項目②「移民の歴史と多様な民族構成」	●			<ul style="list-style-type: none"> 生徒によるワークシートへの記述 発言の様子 	【遂行】 <ul style="list-style-type: none"> アメリカの人種と移民の歴史や問題について調べる。
4	○学習項目③「大規模な農業と多様な農産物」	●	技		<ul style="list-style-type: none"> 生徒によるワークシートへの記述 発言の様子 	【遂行】 <ul style="list-style-type: none"> アメリカの農業の特色と世界との関わりについて知る。
5	○学習項目④「世界をリードする工業」	●			<ul style="list-style-type: none"> 生徒によるワークシートへの記述 発言の様子 	【遂行】 <ul style="list-style-type: none"> 地図を用いてアメリカの工業の変移と他国との関わりについて知る。
6	○学習項目⑤「アメリカ合衆国にみる生			●	<ul style="list-style-type: none"> 生徒によるワークシートへの記述 発言の様子 	【遂行】 <ul style="list-style-type: none"> アメリカ人の生活からどのような地球的課題につながるか考える。

	産と消費の問題」			・話し合いの様子	
7	○単元の目標の振り返りと再考		●	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒によるワークシートへの記述 ・発言の様子 ・発表の姿 ・話し合いの様子 ・話し合いをふまえた方略調整の姿 	【振り返り】【方略調整】 <ul style="list-style-type: none"> ・仲間との交流を通して、「アメリカ合衆国はこれからも同様に世界に影響を与え続けるのか」について振り返る。 ・振り返りを活かし、単元を貫く問いの答えとしてふさわしいアメリカの影響について改めて考える。
8	○単元の振り返りと課題発見		●	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒によるワークシートへの記述 ・発言の様子 ・方略調整を通じた全体を振り返る様子 	【全体の振り返り】 <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習の成果を活かし、単元を貫く問いの答えとしてふさわしいアメリカの影響について交流を通してまとめる。 ・単元の学習を通して、自らの目標達成のために努力し続けたことや工夫したことを振り返る。 ・単元の学習の成果と課題を次の学習にどのように活かすか考える。

(8) 成果と課題

本単元では、単元を貫く問いを設定し、「主体的な学び」のプロセスモデルを踏まえた単元構想を行い、問いの解決に向けて学習活動に取り組みさせた。まず、成果では「単元全体を意識したグループ内外との交流の充実」が図られたこと、「まとめの視点の焦点化による振り返り方法の具体化」ができたことである。具体的には、単元の学習内容を課題提示、仮説、単元の学習、個人での振り返り、小グループでの意見交流、発表・全体との意見交流、個人の振り返り、という流れで行ったことで生徒を主体的に学習に取り組みさせることができた。また、小グループ活動ではファシリテーターを中心に話し合い活動が進められ、それぞれの意見を発表し互いに影響を与え合うことができた。生徒には①仮説、②単元の学習を終えた時点での自分の結論、③全体での振り返りを通じた最終的な結論、と3段階の学習過程でのまとめを提出させた。他の生徒との意見交換を通して互いの意見から学ぶものも多く、結論が変わらない生徒でも自分の立場の問題点や疑問点について触れることができた生徒がいた。多くの生徒が多面的・多角的にとらえ、まとめの内容も「方略調整」がなされたと感じられるものが多かったと考えられる(資料I)。

今回の授業実践より:学習の記録

目指す目標と内容理解の修正ができる。

中国の特徴と産業についてまとめよう。
教科書を使いながら中国の特徴をまとめる。

中国について、中国は面積が広い分、様々な気候があるから、沢山の産物などが取れるから、世界の工場と言われていると思いました。
沿岸部の特徴はどうだろう？

アジアについて、アジアはどの州よりも面積が広くて、沢山の産業があり、沢山の国や宗教がある国がある。だけどその分沢山の課題や問題がある。
課題と産業のつながりがはっきりできると良いね。

これから授業で、アジア州は面積が広い州と似ているから沢山の課題や気候を知ることが出来ると思います。

単元を貫く問いとの関わり、次時の単元へのつながり

新しい疑問や興味関心が広がる

韓国における産業と課題についてまとめよう。
韓国・東南アジアの産業・課題についてまとめよう。
ASEAN会議の言葉を探すと良いかも

中国・韓国について知り、まとめよう。
影響を及ぼすのは良いね

中国の環境問題と韓国について知ろう。
中国・韓国について知り、まとめよう。
韓国の文化を日本が真似ていると同じように、日本の文化を他の国が真似ているのが、素晴らしいです。

まとめの変化の様子

単元のはじめ(既存知識のみの中での考え)

【あなたの仮説】(11/4)

アメリカは同様に影響を、
与え続ける。与え続けたい

その理由
アメリカは日本と貿易関係などがあるからそのつながりが消えることはないと思う。そのため影響を与えると思う。

単元の学習を終えて

【授業を改めて考えたこと】(11/9)

アメリカは同様に影響を、
与え続ける。与え続けたい

上記でも述べているがほんとにアメリカは貿易関係にありその中心の車やファーストフードなどの関わりがあるまたアメリカの課題のCO2排出は日本にも関係のあることだから。

方略調整

【最終的な結論】(11/9)

アメリカは同様に影響を、
与え続ける。与え続けたい

その理由
アメリカは他の国にはない広大な農地や有名会社の本社(AppleやMicrosoft、Google)などがあるから世界には影響を与え続けると思う。また上記のことに矛盾するようで悪いが50年、100年レベルで考えるとアメリカはそう持たないかもしれない。その理由としては中華人民共和国や大韓民国などが最近若者に人気なものが流行したりして世界的にみてレベルがどんどん上がってきていると考える。そのため近い未来ではないが50~100年という大きい規模で見るとアメリカは進出してきた中華人民共和国や大韓民国ましてや日本などにも勝てないかもしれない。そのようになるとアメリカの必要性がなくなってしまうかもしれない。でもアメリカは昔から他国と関わったり、していたこともあるためそう近い未来には影響を与えつづけると思う。

グループ交流や他グループの考えをふまえて

資料1:「学習の記録」や「単元全体を通した学習の活動」により生徒の学びが深まっている。

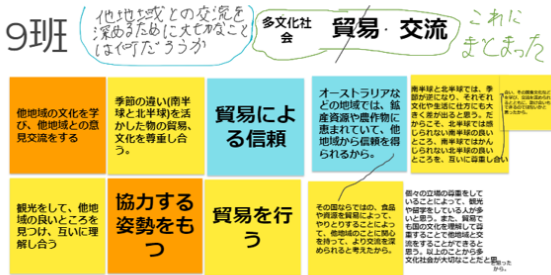
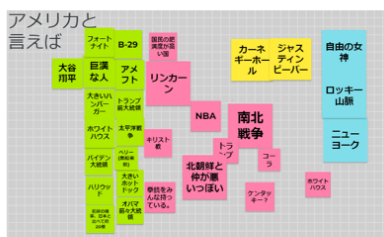
一方、課題点としては小グループでのあとにジャムボードを用いて発表を行ったが、異なった意見を持った生徒の意見が多数の意見にまとめられてしまう恐れがあった。また、今回の学習では「アメリカはこれからも影響を及ぼし続けるのか」という単元を貫く問いが「そうなる」と考える生徒が多数になり、生徒間での再検討が弱く感じられる部分となった。改善点として、次の単元ではより意見が分かれる問いを設定し(「EUの在

り方、統合はこれからも進むのか)、単元の学習においても長所と短所を明確に、より立場を明らかにして学習させる工夫を行った。また、有効な話し合い活動の推進では、ファシリテーターの育成を目指し、本校の総合的な学習の時間で行っている「ファシリテーターの心得」を社会科の授業においても活用し、異なる意見や同じ意見でも様々な視点があることを踏まえ、話し合い活動を通して様々な意見や考え方に触れる機会として進めている。

ICTによる表現の多様化では、「ジャムボードの活用」と「ロイロノートによる主体的な学びの見とり」が挙げられる。「ジャムボードの活用」では、単元の導入時に様々な既存知識を確認する方法として有用であった。また、この方法は KJ 法やベン図の活用など思考ツールとしての活用の工夫も考えられた。また、同時に複数で作業を行える点から単元のまとめを可視化することもできた(資料Ⅱ)。

ICT機器の活用による主体的な学びの姿①

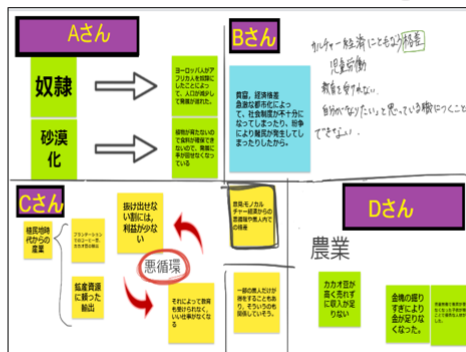
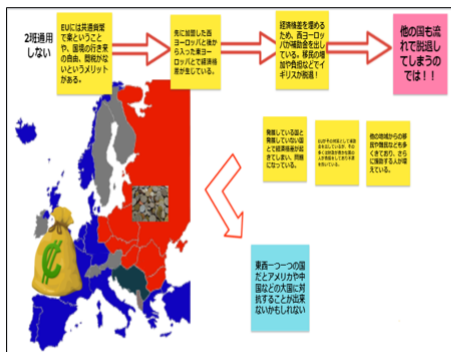
・ジャムボードの活用



(1) 単元の導入
: 地域に対するイメージとして

(2) 単元のまとめ(グループ協議)
: 意見交流やグループのまとめとして
↑上記はコロナ休校時にzoomのブレイクアウトルームを併用して。

ICT機器の活用による主体的な学びの姿①



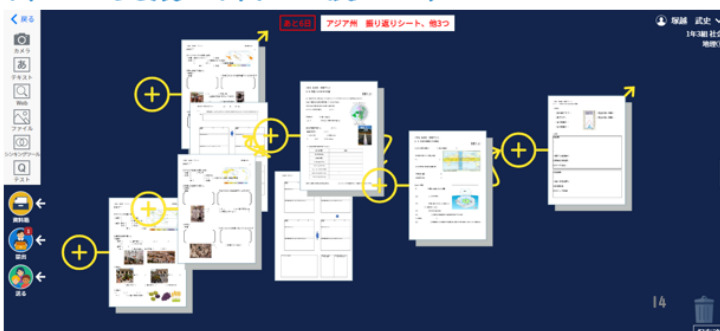
資料Ⅱ: ジャムボードを活用してグループ協議や単元のまとめの可視化に繋げる。

一方、課題点としては意見の違う考えをどのように一枚のジャムボードで表現するのか、ジャムボードの取り組みをどのように評価していくのか、作業を有用なものとするための調整役の育成などが挙げられた。ただし、生徒の考えを表現する方法としては有効な方法の1つであるので今後も活用方法を模索していきたい。

次に、「ロイロノートによる主体的な学びの見とり」では従来紙媒体で行われてきた提出や他の生徒との比較、今までの取り組みなどの確認などが容易にできるようになった。また、授業者による指導や全体との共有なども有用であった（資料Ⅲ）。本校では新型コロナウイルス感染症の広がりによってオンライン授業も行われたが、授業者と生徒、生徒と生徒を繋げる方法として活用することができた。今後も活用方法を模索し、生徒の主体的な学びの育成に繋げるとともに、評価の観点からも活用していきたい。

ICT機器の活用による主体的な学びの姿② ロイロノート

- ・生徒へのワークシートや振り返りシートの配布が容易
（9月の自宅オンライン学習中には特に活躍）
- ・提出、見とりがオンライン上であれば可能
（返却もできるのでより詳しい支援や評価に役立つ）



資料Ⅲ：ロイロノートを活用して生徒の学習の見とりや評価、指導に繋げる。

6 研究のまとめ

（1）「主体的な学び」のプロセスモデルを踏まえた単元構想

本研究においては「主体的な学び」を実現するためにプロセスモデルを用いて単元全体で学習目標を達成する実践を行ってきた。そして、プロセスモデルによる「主体的な学び」の実現には単元にプロセスモデルを当てはめるだけではなく、単元全体をとらえる視点を生徒に持たせ、課題解決型の学習にすることで生徒が意識的に自ら学ぶ姿勢を自覚できるような手だてが必要であった。その視点とは、3学年の実践における「歴史の目」や1学年の実践における「単元を貫く問い」である。また、単元全体をとらえる学習により、振り返りや方略調整を行う場面を設け、生徒が単元の学びを実感することができた。そして、プロセスモデルを用いた学習は特定の単元に留まらず、社会科の学習において各単元の学習で継続的に行うことで生徒は学習に向かう姿勢や学び方も身に付けることができた。例えば、1学年の実践では世界の諸地域の学習において6つの地域区分の学習全てで単元を貫く問いを設定し、プロセスモデルに基づいた学習をおこなったところ、最初の単元では仮説の設定や話し合い活動、最終的な振り返りで十分な理解や活動ができなかった生徒も後の単元の学習では徐々にまとめ方や話し合いの参加など変化が見られたことも大きな成果であった。引き続き各単元において課題解決型の単元構成を設定することや、話し合い活動、振り返りの方法などについて継続して取り組んでいきたい。

（2）「主体的に学習に取り組む態度」の評価の工夫

評価の工夫では各学年ともに「学習の記録」を活用して評価を行うことができた。また、単元によっては毎時間の振り返りとともに、単元の課題となる主発問を単元の学習の経過とともに振り返りながら変容を確認し

つつ評価することも行った。1つの問いを学習前、学習の途中（新たな知識や立場、他者との対話など）、学習のまとめで授業者が何度も振り返り方略調整することは生徒の学びの深まりにも繋がった。

また、ICT 機器の活用は授業者による指導や評価の比較にも有用であった。さらに、互いの感想や考え方を確認し合うことについても活用することができた。今後も機器の活用は様々な学習活動に求められる部分があるが、授業者による活用の深まりとともに主体的な学びに繋がる実践を増やしていくことが肝要である。

最後に、「学習の記録」や ICT 機器の活用はあくまで評価を見取るための方法の1つに過ぎず、引き続き、生徒間の協議の様子や学習課題に対する姿勢、成果物から判断する教師からの支援、そして成果物の達成度や変容をもとに総括的評価を行う必要がある。そのためにも学習課題の検討やプロセスモデルに基づいた単元構想、教材の研究や評価の視点などの検討と再構築が改めて大切になった。

7. 参考文献・引用文献

- ・文部科学省（2018）『中学校学習指導要領解説 社会編』東洋館出版社
- ・中央教育審議会「中央教育審議会 幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（2016年12月21日）
- ・中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめについて」（2016年8月26日）
- ・「学習評価の在り方ハンドブック」, 国立教育政策研究所教育課程研究センター, 2019
- ・松尾知明（2016）『未来を拓く資質・能力と新しい教育課程～求められる学びのカリキュラム・マネジメント～』学事出版
- ・山梨大学教育学部附属中学校（2020）「山梨大学教育学部附属中学校研究紀要」
- ・国立教育政策研究所（2020）『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』東洋館出版社
- ・田村学（2018）『深い学び』東洋館出版社
- ・鹿毛雅治『パフォーマンスが分かる12の理論』金剛出版, 2017年
- ・国立教育政策研究所（2020）『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校社会』東洋館出版社
- ・澤井陽介, 唐木清志（2021）『小中社会科の授業づくり』東洋館出版社
- ・地理教育システムアプローチ研究会（2021）『システム思考で地理を学ぶ』古今書院